

『大阪 880 万人訓練 2026』から学ぶ

- ・ 先日の始業式でもお話をしましたが、今日 9 月 1 日は『防災の日』と定められています。103 年前の同じ日に死者・行方不明者 10 万 5 千人を超えた『関東大震災(1923 年)』が発生しました。
- ・ また、立春(2/4)から数えて二百十日(にひゃくとおか)にあたるこの頃に、台風や大雨などの被害が多いことから、1960 年に『防災の日』が制定されました。実際に、今年もこの時期に福井県では大雨による水害が発生しています。
- ・ 『大阪880万人訓練』ですが、昨年度は、2015 年国連総会で制定された『世界津波の日』である11月5日に実施されましたが、今年度は、『防災の日』の本日実施となりました。この訓練は、皆さんもご存じのとおり『南海トラフ巨大地震』を想定したものです。
- ・ この訓練の特色として、大阪府民の携帯電話に訓練用の緊急速報メールが配信されます。このメールを受信したことをきっかけに、実際にどのような行動をとることが必要なのか、また、事前の備えについて考える機会となることをねらいとしています。
- ・ 『南海トラフ巨大地震』が、今後 30 年以内に発生する確率は、地震調査研究推進本部は、現時点で 60～90%程度以上と公表しています。
- ・ 南海沖では、概ね 100 年～150 年の間隔で津波を伴う大規模災害が発生しており、前回は、1944 年に静岡県から三重県の沿岸部を中心にマグネチュード 7.9 の『昭和東南海地震』、1946 年には和歌山県南方でマグネチュード 8.0 の『昭和南海地震』が発生しています。
- ・ 津波を伴う大規模地震災害から約 80 年が経過したことから、次の巨大地震発生の可能性が高まってきているということは間違いありません。
- ・ 実際に、地震の発生時に第一にすることは、自分の命を守るため、まずは頭を守ることが大切で、教室なら机の下に入って頭を守ることです。「早く逃げる」より、まずは「頭を守る」ことから始まります。火災の場合は、「煙をさけて素早く避難すること」ですので大きく違います。
- ・ 次に、避難する際の注意点ですが、火災発生時のように教室等の扉や窓は、わざわざ閉める必要はありません。地震では建物が歪んで、扉や窓が動かなくなることがあるので出口を確保することも必要となります。

- ・ 本日の訓練では、熱中症にも配慮し、運動場への集合は行いませんでしたが、本来は、地震の揺れが収まれば、一旦は落下物などの心配のない運動場のような広い場所に集合し、人員点呼をしてから、津波の可能性がある場合は、高い階への『垂直避難』することとなります。
- ・ 大きな地震が起きると、多くの人がパニック状態になってしまいます。避難する時には、「押さない、走らない、しゃべらない、戻らないの、それぞれの頭文字をとって『お・は・し・も』は、災害時に命を守る行動原則と言われています」ので覚えておいてください。
- ・ 地震は、いつ・どこで発生するのか分かりません。皆さんも家族で旅行に出かけたり、友だちと遊びに出かけたりと、常に阿倍野区内で生活をしているわけではありません。
- ・ 場所によっては 30m 以上の津波が想定されている地域もあり、その場合 10 階建ての建物ほどの高さになりますので、垂直避難の高さも当然変わってきます。
- ・ また、家の中で大地震が発生した場合、家具が倒れてきたり、テーブルや台の上に置いてあるテレビなどの電化製品が飛んできたりするようなこともあります。
- ・ 30 年前の『阪神淡路大震災』は早朝(5:46)に発生したため、寝ている状態で家具の下敷きとなり亡くなった方が多くいました。皆さんの家の寝室などに倒れてくるような大きな家具や飛んできそうな電化製品などは置いていないでしょうか。
- ・ 『南海トラフ巨大地震』では、大阪市でも最大震度 6 の大きな揺れや津波、建物の被害、電気・水道・通信などが使えなくなることが想定されています。夏休み中の 7 月 28 日に発生した『熊本地震』では、建物が崩壊し水道や電気などのライフラインが停止し、今も復旧しない状況が続いています。
- ・ 生徒の皆さんは、今日、家に帰ったら、「もし大きな地震が発生し、家族と連絡が取れなかったらどうするか？」や「(安全な) 待ち合わせ場所をどこにするか？」など、話し合う機会にしてほしいと思います。
- ・ 最後に、中学生は守られるだけの存在ではなく、もしもの時に、自分自身のいのちを、そして家族・地域の方々・他者のいのちを守る行動がとれることを願っています。
以上で私の話は終わります。